

## 社 報



## アルミ支柱で苦戦

パイプサポートに代わる支柱として、アルミ製の支柱製作を進めていますが、なかなかうまくいきません。

下の写真は、75角支柱が、約9.6トンで座屈した写真です。ピン穴で弱所になった部分が座屈しています。



## 事実こそが正しい

自動車メーカーと言えば、その先端技術もスゴイですが、何と言っても、安全や環境に真摯に取り組む姿勢には、頭の下がる思いがありました。技術立国「日本」の看板も、自動車産業が、先進国である、アメリカやヨーロッパに、追いつき追い越せと、切磋琢磨を繰り返してきたからだこそ、と言っても過言ではないと思います。

その自動車産業で、燃費偽装が発覚したのです。昨年はフォルクスワーゲン社が、燃費検査をごまかすソフトを、車に搭載したことが発覚し、全世界を驚愕させたばかりですが、今度は、日本で三菱自動車が燃費データの改ざん。いわゆる偽装をしていたことが判明しました。

また、スズキも国土交通省が定めた以外の方法で、燃費の測定をしていたことを発表し、カタログデータとはいったいなんなのか、消費者は疑い持ち、愕然とした思いです。

なぜこのようなことが起こるのか、人間たる生物は、どのような思考をするのか、考えてみるべきだと思います。

自由経済の社会では、競争が革新

のエネルギーです。

他社よりも性能の高いモノを作れば価格を高くして、利益を上げることができます。また他社よりも、安く作る技術を開発すれば、原価を下げることもでき、他社と同じ価格で販売しても、より多くの利益が出せます。

技術者は、懸命に他社より優れた製品を開発し、生産管理者は他社よりも早く・安くを追及します。経営幹部からも、売れる新製品を！もっと安く作れる方法で！と叱咤激励されるのでしょう。そうした状況の中では、できない人は落ちこぼれになってしまいます。できないメーカーは競争への土俵にも乗れません。他社に負けていても、負けは認められない世界で、競争の原理がゆがんでいくのです。

事実を冷静に見ると言うことは、目の前の現実を正しく見ること。それは、物やデータはもちろん、それを実行している組織・人間を正しく見るということでもあります。

過度な期待とプレッシャーは事実をゆがめてしまいがちです。

当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

## 雨のシーズン前には

6月には、梅雨の季節を迎えます。雨が多く、じめじめした気候は仕事ににくい嫌な季節です。雨と言えば、水、水と言えば、漏電・感電と、電気災害が連想されます。梅雨の前には、電動工具、リード線を点検して安全を確認してください。

今月も災害がありませんように……(拝)

電気工具点検  
5月1日～7月31日

## 2016年 安全成績

■現場災害 H28.1.1-H28.6.4	
休業災害	----- 0
不休災害	----- 0
物損災害	----- 0
その他	----- 0
合計	----- 0
■交通災害 H28.1.1-H28.6.4	
人身災害	----- 0
物損災害	----- 0
合計	----- 0